

す～ゆに協連職協社

発行：茨城社会福祉協議会職員連絡協議会
令和3年7月30日 発行



第38号

令和3年度事業計画

【主な活動】

○研修事業

- ・職員新任・初級研修の開催
- ・専門研修の開催
- ・「ミニミニテイソーシャルワーク
実践者養成研修の開催

実践者養成研修の開催

- ・支部研修実施の促進

- ・「第五七回関東ブロック都市町村社協職員
合同研究協議会」への参加

合同研究協議会への参加

○広報活動

- ・「職連協にゆ～す」の発行(4回)

- ・茨城県社会福祉協議会内

職連協ホームページの活用

- ・「茨城県内社会福祉協議会事業概要
及び職員設置状況調査」の作成

「茨城県内社会福祉協議会職員名簿」
の作成・メール配信

- ・「茨城県内社会福祉協議会職員名簿」
の作成・メール配信

の作成・メール配信

- ・(新)パンフレットの作成・配布

○支部活動活性化事業

- ・支部活動助成事業の実施

- ・支部長との連携

- ・支部運営委員への支援

- ・(新)オンライン会議の環境整備

○福利厚生・互助事業

- ・退会記念品の贈呈

- ・(新)会員を対象とした互助事業

○他団体との連携

- ・関東ブロック社協職員の会
連絡会との連携

連絡会との連携

- ・茨城県社会福祉協議会との連携

- ・茨城県民間社会福祉事業
従事者互助会との連携

従事者互助会との連携

- ・茨城県市町村社会福祉協議会
事務局長会との連携

事務局長会との連携

○会務

- ・理事会の開催

- ・代議員会の開催

- ・監査の実施

- ・組織・財務検討委員会の開催



茨城県内社会福祉協議会

職員新任・初級研修

令和三年七月一日(金)に茨城県内社会福祉協議会職員新任・初級研修【ステップ1】がアダストリア水戸アリーナで開催され、県内の市町村社協から三十八名の参加がありました。

「参加者同士を知る」ミニミニケージンをとりやすい雰囲気づくりから始まり、「社協の基本理解」「社協新任職員への期待」などの講義を交え、「住民に必要とされる社協職員をめざして」をテーマに、茨城県社会福祉協議会地域福祉活動アドバイザーの長谷川幸介氏を講師にお招きし、社協を取り巻く状況や社協が果たすべき役割・社協職員への期待について理解し、自身が目指す職員像を考えることで、社協職員としての在り方や役割を学ぶ有意義な時間となりました。

次回、「ステップ2」は令和三年十一月十六日(火)開催となります。なお、新型コロナウイルス感染症拡大の状況によつては、開催方法の変更があります。

令和3年度新任・初級研修【ステップ1】

講師の皆様からは貴重なご意見、アドバイス

をいただき有り難うございました。



受講された方からのメッセージ

コロナ禍の中で思うような研修ができていませんでしたが、直接顔を合わせて会話することがどれだけ大切な事を改めて実感することができました。また、社協は住民主体で課題の解決に取り組むニーズにこたえたり、常に時代に沿った広い視野をもって取り組んでいくことが大切だと思います。県内の感染者が増加傾向にありますが、【ステップ2】においても会場で行えることを祈っております。

(小美玉市・久保田 裕樹)

今回の研修を受け改めて社協の意義、歴史等を振り返ることができた。住民と同じ目線で考え、コミュニケーションをとりニーズの発見をしていくことが大事であることを学び、広報紙やSNSなどでの情報提供の必要性、仕事をするにおいてどこに目標を持つのかによって仕事の質が変化すること、目標達成のために自分の中で信念をもって仲間と取り組まなくてはいけないことを学ぶことができました。

(小美玉市・長谷川 滉人)

第57回関東ブロック郡市町村社協職員合同研究協議会

神奈川大会

Change! Challenge! to the future

— 社協には地域と未来を変えるチカラがある —

第五七回関東ブロック郡市町村社協職員合同研究協議会(神奈川大会)が、令和三年七月八日(木)に開催されました。十一の都県から四百二十四名の参加がありました(茨城県二十八名)

新型コロナウイルス感染症の影響により、社会の在り方も大きく変わり以前からの地域課題に加え、「コロナ禍により課題はさらに深刻なものとなっています。」

また、従来の制度や法の枠組みの中では十分に対応できない制度の狭間で困っている方への取り組み、災害時の活動も含めて、社会福祉協議会の取り組むべき課題はますます多様化しています。本大会では、社協の役割使命を再認識しながら未来に向けた「社協の力」の可能性を追求していくとともに「change(変化)」「challenge(挑戦)」を旨とし、オンラインという新しい形式での開催となりました。

なお、第1分科会「これからの社協が行う相談支援」の在り方とはでは、水戸市社会福祉協議会 相談支援課 権利擁護サポートセンター・中崎 恵氏による実践報告があり、権利擁護サポートセンター事業の特徴やこれまでの取り組み、そして事業の今後について伝えられました。これからの展望につきましては、本年度から発足した「茨城県中央地域成年後見制度利用促進に係る中核機関」を充実したものに、重層的セーフティネットを構築できる体制をつくり、断らず、受け止め、繋がり続ける支援体制、多機関協働による切れ目のない支援活動を行うため、利用者も後見人も専門職も中核機関をも孤立しないよう支え合う仕組みづくりを目指していきたいと考えておりますとの報告がありました。

実践報告ありがとうございました。

